



学校園だより

良樹細根

丹波篠山市立
たまみず幼稚園
城北畑小学校
7月の6



すずらん組もひまわり組も朝の支度を終え、絵本の読み聞かせが終わった後、外で遊ぶ時間を設定しています。

野菜の収穫から始まり、警察と泥棒に分かれての追いかっこ、アマガエル探し、砂場でのトンネル掘りやダム作り、水鉄砲遊び、お店屋さんごっこ、ボール遊び等々、どの遊びでも次々とその遊びを発展させていく様子が見られます。「こんなふうにしたら?」「この道具を使えばいい。」「〇〇ちゃんは、このところをして!ぼくは、こっちをするから!」「水を流したら面白くなるで」等々、コミュニケーションを交わしながら生き生きと活動しています。遊びの中でどんな会話をしているのか、また子ども同士がどんな関わり方をしているのか、そこにどんな学びがあるのか、私たち職員は常に観察し、指導と支援を重ねていきます。

7月27日(月)5校時

研究授業

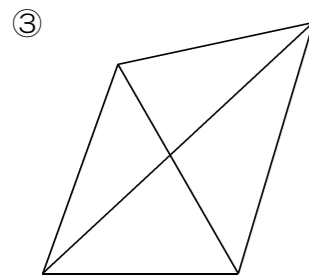
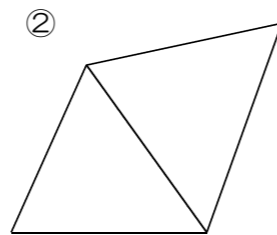
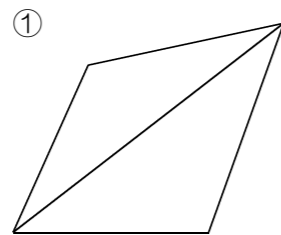
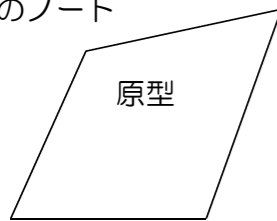
5年算数科 テーマ「三角形の内角の和が 180° であることをもとにして、四角形の内角の和を求める」

児童：4つの角をハサミで切り取る → それを隙間が空かないようにぴったりとくっつける
4つの角を分度器で図る → 4つの角の大きさの和を求める

↓
 360° になることを確かめる

教師：分度器やハサミを使わないで、四角形の4つの角の大きさを求めることはできないか??

児童のノートから



提示された四角形から児童が考えた方法は3種類。共通しているのは対角線を1本引くと三角形が2つであることから、既習事項、三角形の内角の和は 180° だから、 $180 \times 2 = 360$ と児童が説明する。

ところが③では、三角形が4つだから、 $180 \times 4 = 720$ になるのどっちが本当の答えなのか分からないと答えた児童。なるほど! そうだなと同調する児童。でも、どちらが正答なのか分からない・・・。

ここからの話し合いは興味深いものがありました。数学的なコミュニケーション、数学的な思考、よりよい考え方を個人思考で終わらせず、クラス全員で共有することに努めています。



※対角線を2本ひくと、4つの三角形ができる。三角形4つ分から真ん中の一回転分をひくと、四角形の和になる。従って、 $180^\circ \times 4 = 720^\circ$ $720^\circ - 360^\circ$ で答えは 360° という結論に至りました。対角線1本ひくと、三角形が2つで 360° ですんなりと分かるころ、この授業では、2本ひいて三角形が4つになった場合はど

のように考えればいいのか、発展的な課題に5年生が挑戦しました。子ども同士の深い学びに講師先生も絶賛されていました。

3年生では

アメ10個で50円するとき、1個の値段はいくらでしょう?



割る数が2桁(10)の場合の計算の仕方考えました。

考えた方法(児童の発言)

①予想を5円として、50円から5円ずつ取っていく。 $50 - 5 = 45$
 $45 - 5 = 40$ 、 $40 - 5 = 35$ 、 $35 - 5 = 30$ 、・・・としていくと、10回目で50円がなくなる。だから、1個の値段は5円です。

② $50 \div 10$ は難しいので、 $50 \div 5$ にしてみた。 $50 \div 5 = 10$ でも、アメは10個なので $50 \div 5$ の答えを2つに分けます。だから、 $10 \div 2 = 5$ 、つまり、答えは5円です。

③昨日学習したかけ算と似ていて、わり算とかけ算の逆だから、一の位の「0」を取って考えました。

※友だちの考えが分かったのか、納得したのか、少し分からないのか、全く理解できないのか、自分の言葉で説明できるのか等々、一人一人の様子を確かめながら学習を進めています。質問、疑問があるのならどんどん発言するように指導をしています。数学的な見方、考え方をクラス全員で共有することで、「深い学び」「わかる・できる」に繋がるようにしていきます。

10倍したら位が一つ上がり、「0」が1個ふえる。
10で割ったら位が一つ下がり「0」が1個へる

この時間の結論です!



2年生では

図を使って考えよう ~テープ図を使って~

問題「アメをもっていました。そのうちの5こを食べたので、のこりは13こになりました。はじめは何こありましたか」

●児童の様子 ①挿絵と問題文から、はじめにあったアメの数を求める問題であることをつかむ。②分かっている数字を書き出す。③問題文に書かれている内容を確認しながら、今まで習ってきたテープ図を活用してノートに書く。

※減る前の数を求める問題ですが、加減の逆思考の中で一番難しい構造を持つ内容です。つまりしてしまう児童も多く、どのようなテープ図をかけばいいのか悩んでいました。テープ図は、問題の要素である数量とその関係を線分に置き換えたものであり、具体物や絵より抽象度が高くなります。一人一人の児童が問題のイメージがつかめるように、児童同士の話し合いを重ねていきます。



PTA環境整備作業について

8月23日(日)午前8時から実施いたしますが、今回は密を避けるため、役員及び協力委員の方のみで行います。ご了承ください。